＼ 最新の研究成果を、分かりやすく解説 ／

第15回 PIASセミナー

漢とローマにおける医療具の特質とその背景
― 鉄器文明における「人体と金属」の関係比較 ―

古代ローマと漢は、ともに高度な金属加工技術を持つ大帝国でした。ところが、医療のために作られた道具を比べてみると、二つの文明には興味深い違いがあります。ローマでは、鉄の刃を備えたメスや骨鋸などの外科手術具が数多く用いられ、身体を切り開いて治療する技術が発達しました。一方、漢では鍼灸や薬による治療が重視され、人体への働きかけ方はローマとは大きく異なっていました。

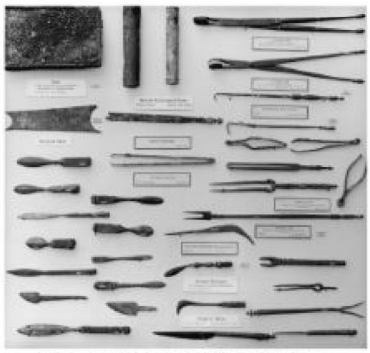
こうした違いは、単なる医療技術の差なのでしょうか。それとも、その背景には「身体とは何か」「病気をどのように治すのか」という考え方の違いがあったのでしょうか。

本セミナーでは、ローマと漢の医療具を手がかりに、東西の医療技術を比較しながら、それぞれの文明における身体観や治療の考え方を探ります。古代の小さな「道具」から、二つの文明が人体をどのように見つめていたのかを読み解きます。



村上　恭通　教授
愛媛大学先端研究院
東アジア古代鉄文化研究センター（AIC）





ローマ時代の金属製外科手術具
〔Milne 1907：Pl. XX〕



漢代の経穴（ツボ）を表した
漆塗り木像（高さ 14cm、成都博物館蔵）



2026 12/9 水
17:00~17:30

どなたでもご参加いただけます

オンライン開催

セミナーのログイン情報は、EU_BBSをご覧ください。
学外の方は事前に参加登録をお願いいたします。

参加登録はこちら

〈お問い合わせ〉
愛媛大学 先端研究院 先端研究高度支援室
E-mail：pias_adm @stu.ehime-u.ac.jp

eu-PIAS